

カラスガレイ 北西大西洋

Greenland halibut *Reinhardtius hippoglossoides*



(Fisheries and Oceans Canada)

管理・関係機関

北西大西洋漁業機関 (NAFO)

(注) NAFO 条約海域に南北2系群あるが、本稿は日本 TAC 枠がある南系群に関する情報。

生物学的特性

- 最大体長・体重：雄 90 cm・7.9 kg、雌 109 cm・14.5 kg。
体長は下顎先端～尾鰭基底、体重は全重量（代表的な成長式及び体重・体長関係に基づく）。
- 寿命：最大寿命は雄 17 歳、雌 33 歳（研究例）。資源評価では 10 歳以上をプラスグループとして取り扱う。
- 性成熟年齢：雄 9～10 歳、雌 12～13 歳（50%成熟年齢）。
- 産卵期・産卵場：周年（夏・秋に多い）。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 索餌期・索餌場：秋（10～11月）に活発。グランドバンク・フレミッシュパス（NAFO 海域 3LM）。
- 食性：魚類（タラ、ゲンゲ、シシャモ、アカウオ等の幼魚）、甲殻類（エビ）、頭足類（イカ）等。
- 捕食者：シャチほか。

利用・用途

食用（生鮮・冷凍）で販売され、惣菜（煮つけ、ムニエル、ソテー、唐揚、刺身）や寿司ネタとして利用。

漁業の特徴

主に着底トロールで漁獲される。NAFO 発足以降 43 年間（1979～2021 年）の平均漁獲量の多い国はカナダ（38%）、スペイン（28%）、ポルトガル（14%）、日本（5%）、ロシア（7%）でこの5か国で全体の93%を占める。

漁獲の動向

本格的な漁業が開始されたのは 1964 年で、漁獲量は約 4,300 トンであった。5年後の 1969 年には約 3.7 万トンとなり、9 倍近く急増した。その後 1978～1980 年、1992～1994 年及び 2000～2003 年にあった 3 回の漁獲量ピーク期（平均漁獲量各約 3.5 万、約 5.4 万、約 3.2 万トン）以外は、減少傾向が続き現在に至っている。最近 5 年間（2017～2021 年）の平均漁獲量は約 1.6 万トンで、3 回目のピーク時の漁獲量の約 49%と低いレベルにある。また、2022 年、2023 年及び 2024 年の漁獲量は NAFO の科学理事会独自の推定でそれぞれ約 15,700 トン、約 14,200 トン及び約 14,800 トンであった。

資源状態

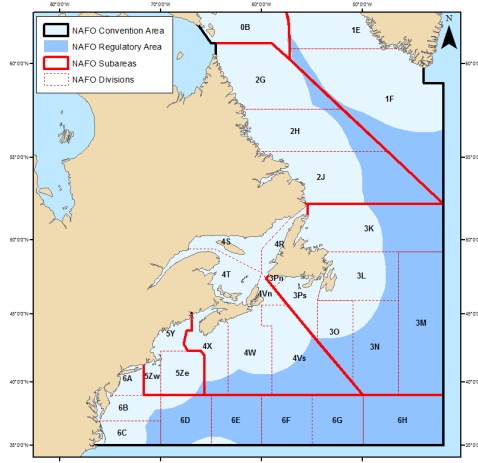
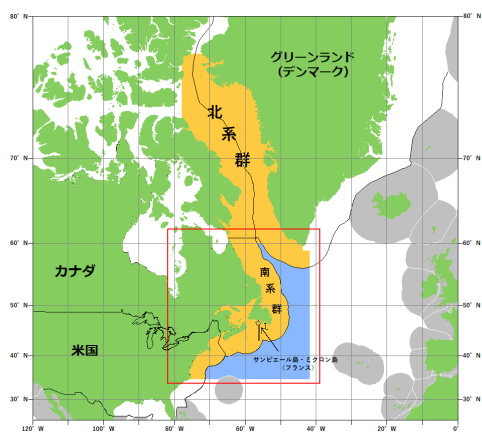
最新の資源評価は 2024 年 9 月の NAFO 科学理事会において 1975～2021 年のデータに基づく第 3 版の MSE の開発の際に実施された。資源評価は MSE のオペレーティングモデル (OM) で使用されている統計的年齢別漁獲尾数モデル (SCAA) 及び拡張型 SCAA 状態空間モデル (SSM) により実施された。本資源評価は MSE の OM で合意されたベースケースを用いて実施された。2021 年の資源状態は両モデル共に乱獲状態 ($B_{2021}/B_{MSY}=0.53\sim 0.65$ 、B は漁獲対象 (5～9 歳) 資源量) で、過剰漁獲 ($F_{2021}/F_{MSY}=1.22\sim 1.34$) である。

管理方策

主な管理方策は MSE に基づく漁獲管理ルール (HCR) により TAC を決定している。2025 年と 2026 年の TAC は全体でそれぞれ 14,791 トン及び 14,729 トン（日本割当はそれぞれ 1,123.5 トン及び 1,118.8 トン）。その他に、VME（脆弱な海洋生態系）保護のための禁漁海域設置、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30 cm）、網目規制（130 mm）等。

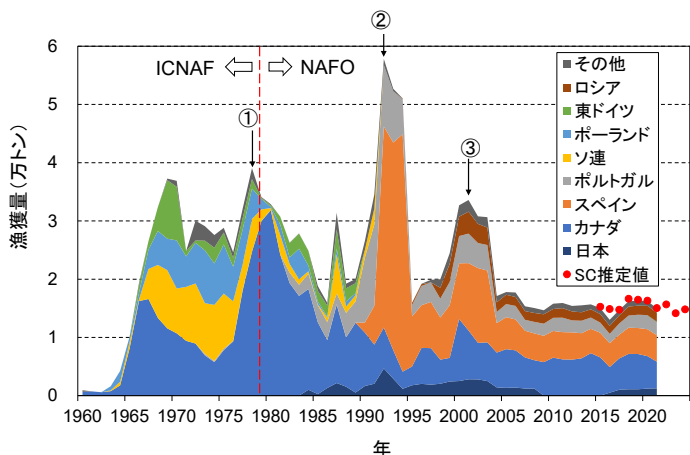
カラスガレイ（北西大西洋）の資源の現況（要約表） （注）NAFO 条約海域（南系群）操業域（統計海域 2+3KLMNO）の情報に基づく	
NAFO 海域における世界の漁獲量（最近5年間）	14,693~16,304 トン 最近（2021）年：14,988 トン 平均：15,693 トン（2017~2021 年） 2022 年、2023 年、及び 2024 年の科学理事会による推定値はそれぞれ 15,670 トン、14,160 トン、及び 14,820 トン。
我が国の漁獲量（最近5年間）	676~1,253 トン 最近（2024）年：676 トン 平均：1,101 トン（2020~2024 年）
資源評価の方法	統計的年齢別漁獲尾数モデル（SCAA）及び拡張型 SCAA 状態空間モデル（SSM）を用いた解析
資源の状態（資源評価結果）	2021 年時点において乱獲状態で（ $B_{2021}/B_{MSY}=0.53\sim 0.65$ ）、過剰漁獲である（ $F_{2021}/F_{MSY}=1.22\sim 1.34$ ） なお、B は漁獲対象（5~9 歳）資源量を示す
管理目標	2044 年までに B（漁獲対象資源量）を B_{MSY} レベルに回復（MSE の管理目標）
管理措置	MSE の枠組みで設定された HCR、混獲・投棄規制、漁獲体長最小規制（30 cm）、網目規制（130 mm）、VME の禁漁海域設置ほか
管理機関・関係機関	NAFO
最新の資源評価年	2024 年
次回の資源評価年	2027 年

* 2021 年までのデータによる資源評価



NAFO 条約海域=管轄海域（空色）+EEZ（オレンジ色）
 (注1) カラスガレイには南北2系群あり、本稿では日本 TAC 枠のある南系群の情報をまとめた
 (注2) 赤枠内の詳細は右図

NAFO 条約海域南部の統計海域
 南系群操業域=カナダ EEZ 内（海域 2+3K）+ 日本ほか加盟国 TAC 枠のある公海域（3LMNO）



NAFO 条約域（統計海域 2+3）におけるカラスガレイ国別漁獲量（1960~2021 年）及び 2015~2024 年の科学理事会（SC）による漁獲量推定値（赤丸）

(注1) ソ連は 1991 年まで、1992 年以降ロシア。東ドイツは 1990 年まで、それ以降（統一）ドイツの操業はない

(注2) その他（累積漁獲量順）：フェロー諸島、エストニア、西ドイツ（1990 年まで）、仏領サンピエール島・ミクロン島、ノルウエーほか

(注3) ①、②及び③は、3 回の漁獲量ピーク年を示す